

1 再読文字その3

<書き下し文・意味>

(1) すぎたるはなほ

過ぎたるは猶ほ及ばざるがごとし (行き過ぎているのは足りていないのと同じだ)

(2) すべからく

須らく叱るべきに反って笑ふ (叱らなければいけないときに笑っている)

(3) あるがごときなり

猶ほ魚の水有るがごときなり (ちょうど魚に水があるようなものだ)

(4) なほるいらんのごとし

危ふきこと由ほ累卵のごとし (危ないことはまるで積み重ねた卵のようだ)

(5) ときをおもふべし

須らく常に病苦の時を思うべし (常に病気で苦しんだ時のことを思い出す必要がある)

2 再読文字その4

(6) まさにせんとす

始皇帝将に死せんとす (始皇帝はいまにも死にそうだ)

(7) まさにこれをのまんと

酒を引きて且に之を飲まんとす (酒を引きよせて、今にもそれを飲もうとした)

(8) なんぞまなばざるや

盍ぞ学ばざるや (どうして学ばないのか)

(9) しなんぞわがために

子盍ぞ我が為に之を言はざる (あなたはどうして私の為にこれを言ってくれないのか)

(10) もってしたがへざる

盍ぞ漢文を善くする者を以て従えざる (どうして漢文の良くできる者を従えて行かないのか)

<読み方のポイント>

「猶」は再読文字。再読文字は、始めに返り点を無視して読み、その後もう一度返り点通りに読む。猶は「なほへのごとし」と読み、「まるで～のようだ」と訳す。

「須」は再読文字。再読文字は、始めに返り点を無視して読み、その後もう一度返り点通りに読む。須は「すべからく～すべし」と読み、「～する必要がある」と訳す。

「猶」は再読文字。再読文字は、始めに返り点を無視して読み、その後もう一度返り点通りに読む。猶は「なほへのごとし」と読み、「まるで～のようだ」と訳す。

「由」は再読文字。再読文字は、始めに返り点を無視して読み、その後もう一度返り点通りに読む。由は「なほへのごとし」と読み、「まるで～のようだ」と訳す。

「須」は再読文字。再読文字は、始めに返り点を無視して読み、その後もう一度返り点通りに読む。須は「すべからく～すべし」と読み、「～する必要がある」と訳す。

「将」は再読文字。再読文字は、始めに返り点を無視して読み、その後もう一度返り点通りに読む。将は「まさに～んとす」と読み、「今にも～しようとする」と訳す。

「且」は再読文字。再読文字は、始めに返り点を無視して読み、その後もう一度返り点通りに読む。且は「まさに～んとす」と読み、「今にも～しようとする」と訳す。

「蓋」は再読文字。再読文字は、始めに返り点を無視して読み、その後もう一度返り点通りに読む。蓋は「なんぞ～せざる」と読み、「どうして～しないのか」と訳す。

「蓋」は再読文字。再読文字は、始めに返り点を無視して読み、その後もう一度返り点通りに読む。蓋は「なんぞ～せざる」と読み、「どうして～しないのか」と訳す。

「蓋」は再読文字。再読文字は、始めに返り点を無視して読み、その後もう一度返り点通りに読む。蓋は「なんぞ～せざる」と読み、「どうして～しないのか」と訳す。



【アプリ版のご紹介】古文・漢文

古文・漢文を学習中の中学生、高校生必見！定期試験とセンター試験に頻出の「古文単語」「古典文法」「漢文」を、完全に無料で学べるアプリが登場！！



【オマケの一題】

中学社会 地理・歴史・公民

本会議を開くために必要な議員数は、総議員の何分の何以上？

(A) 4分の1 (B) 3分の1 (C) 2分の1 (D) 3分の2